

ねん ぶつ 念 仏

■ 楽曲データ

歌詞：念仏

楽曲：D. ハント 編曲

発表：—

初演：—

初出：—

管理番号：M0809

■ 創作の経緯

ハワイ開教区にて発表。編曲者ドロシー・ハントは1924（大正13）年にホノルル別院で得度し（法名・釋真光）、1937（昭和12）年までヒロ本願寺やハワイ別院に駐在していたことから、創作年代は1920～1930年代と推測される。

■ 校訂報告

校訂譜：『聖歌・讃歌集』第1巻収録

底資料：『和英標準佛教讃歌勤式集』 本派本願寺内翻譯課 1939年

校訂の詳細：特記事項なし

■ 解説

◆ 曲について

20世紀前半に、ハワイ開教区で生まれた作品です。ハワイが欧米文化圏に属していることもあって、キリスト教の讃美歌に似た響きが特徴となっています。

編曲者はドロシー・ハント（生没年不詳、法名・釋真光）。夫のアーネスト（法名・釋真覚）とともにハワイで浄土真宗の伝道に尽力し、英語の歌詞による仏教讃歌を数多くつくりました。

◆ 音楽法要・礼拝で用いるとき

直前の楽曲の調性にあわせ、適宜移調するとよいでしょう。

◆ 演奏のヒント

①お名号が歌詞となっています。どの言葉も明るく美しい響きになるように、発音を丁寧に練習しましょう。特に、最初の「な」や2・3小節目の「だ」など、「あ」の母音で伸ばすときは、響きが浅く平たくなりやすいので、深い発音を心がけましょう。

- ②「なもあみだ」「あみだ」という歌詞の切れ目ごとに、フェルマータ（「動きを止める」という意味の記号）がついています。旋律も、言葉の始まりの音からフェルマータまでがひとまとまり（フレーズ）になっていることに注意しましょう。フレーズの途中で息を吸う場合は、そのまとまりをくずさないように注意しましょう。
- ③歌いだしの音「レ」が、曲の中でいちばん高い音です。声を出す前に息をしっかりと吸い、高い音を出す準備をしましょう。また、歌い出してから音をずりあげないように、「な」の子音「n」から正しい音をとらえる練習をしましょう。
- ④1小節目3・4拍目「ド」→「ラ」は、ずり下がらないように気をつけましょう。「あみだ」の「あ」を軽く言い直すと意識しやすいと思います。
- ⑤1～3小節目「あみだ」のフレーズは、音程を保つのが難しいかもしれません。3回出てくる「ラ」の音がすべて正しい高さになるように、注意してみてください。
- ⑥3小節目のように、フェルマータで音をのばすときは、音が下がりやすくなります。切る瞬間まで、気を抜かないようにしましょう。
- ⑦4・5小節目は低い音が続きますが、歌声は明るい響きを保ちましょう。
- ⑧6小節目からは、最初の5小節の繰り返しです。もう一度息をたっぷり吸って、歌い始めましょう。
- ⑨11～12小節は、曲の締めくくりです。この部分のように、1拍ずつ階段状に音が変わるときは、ごつごつとなりやすいので、レガート（なめらかに）を心がけましょう。

◆音源

CD『仏教讃歌一歌集』に、模範演奏とカラオケが収録されています。ご購入については、本願寺出版社（0120-464-583）へお問い合わせください。

解説執筆：山口篤子（本願寺仏教音楽・儀礼研究所 [現・浄土真宗本願寺派総合研究所] 研究員）

※本解説は、「メロディーの宝石箱」No. 74（仏教婦人会総連盟機関誌『めぐみ』第201号収録）を加筆・修正のうえ、転載。

Copyright: Jodo Shinshu Hongwanji-ha Research Institute. All Rights Reserved.